

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四 八〇三三
京都市中京区蛸薬師通河原町東入
電話 (〇七五) 二五三・〇七〇七

《揺れる情(こころ)》通信②⑨

稲荷山武田病院院長 土屋宜之/元京都医療センター外科部長

本居宣長さんは「言霊」の生命力を「いともあやしき言霊のさだまり」と言っています。宣長さんが『詞の玉緒』で究明した事は私たちが「言霊」を持つているのは恰も私たちが肉体を持つているが如きものだと言ったことでした。ここで宣長さんは素直に率直に感嘆し「言霊」の生命力に魅せられているのです。

「言霊」の受け渡しが必要ならば他人との付き合いを温めることも出来ず、恋愛も結婚も出来ないのです。「言霊」は間違いなく日常生活に必須のものなのです。

日本語とは本当に温かい言葉ですね。表面の意味のその奥の魂の叫びを淡々と、阿吽の呼吸で伝えてくれるのです。日本語に宿っている「言霊」は日本人の情(こころ)の中に生き続けています。

《Nセンチラル、イク・ストロ(リー)フィルズでの平和と愛の歌「イマジン」》

2001年7月祇園祭をエスケープし社員旅行でニューヨークを訪れました。その二カ月後に9・11同時多発テロで世界貿易センターツインビルが破壊されました。映画のシーンをみている様でした。7番街のホテルコンシエルジュに案内されたセントラルパークのジョンレノンのイマジン記念プレート。ここではテロ直後に「イマジン」が歌い継がれたと聞いて感銘を受けました。

私事ですが1984年シカゴのアスレチックホールでの「さきぞうファッションショー」開催す前に胆嚢を摘出し、楽しみにしていた著名店のステーキを断念しました。そこで自然に近い環境で放牧された「グラスフェッドビーフ」を薦められ、ニューヨークまで辿り着きました。年配のギャルソンがいたお店では4kgのTボーンステーキを三人で平らげる事が出来ました。グランドゼロに記念碑が完成したと聞いて祇園祭をエスケープし、社員旅行で再度ニューヨークを訪ねました。

《歩む道》

常楽臺住職 今小路覚真

親鸞聖人とその師である法然上人とは一つの共通点があります。

二人とも自らが望んで僧侶の道を進んだのではない、ということなのです。

特に親鸞聖人は、貴族の家柄とはいえ洛中に住むことなく、宇治にほど近い日野で生を受け九才まで生活をされていました。

長男であり、当時の社会構成であれば、それなりに地位を与えられて、その家を継承されて当然の立場でありましたが、九才で青蓮院に入り、そのまま僧としての道を歩まれました。

日本の高僧、名僧といわれる多くの人に、自らの意志で仏門に入られた人はどれほどおられたのでしょうか。現今の若者に、自分の意志で人生の道を歩まれた先人がどれほどおられたのか、訪ねてみられることをお勧めします。

むしろ与えられた境遇の中で、自らの歩む道を探し続け、そしてそれなりの結果を得られた人たちだったのです。

《ブドウの再利用 グラッパ》イタシヨク 福村直

ワインはブドウから造られますが、残った搾りかすはどのように利用されているのでしょうか。ブドウの皮はグラッパに、種はオイルを造るのに使います。グラッパはアルコール度数が高く寒い日に体を温めるために飲んだり、食後酒として親しまれています。イタリア特産のグラッパはアルコールを含んだ果皮を熱し、その後の冷却によって液化して濃縮したアルコールを抽出します。

グラッパの歴史は10世紀頃まで遡ります。その頃、上流社会ではワインやブランドーが主流で、グラッパは搾りかすで造った一番安上がりで手っ取り早く酔える酒の代表として農民たちに親しまれていました。ほとんどのグラッパは無色透明ですが、この半世紀は品質を向上させるためウイスキーの様に木樽で熟成させ、香りや味わいに複雑味を加えた琥珀色の高級なグラッパも増えました。

健康レシピ

栄養士 國松美也子

《11月レシピ》

柿はビタミンC、β-カロテン、カリウム、食物繊維、タンニンなどが豊富に含まれ、免疫力向上、美肌効果、腸内環境の改善、二日酔い防止、生活習慣病予防などの効果が期待できます。

柿の白和え(4人分)

材料：柿1個、木綿豆腐1丁、ねりゴマ大さじ2、砂糖大さじ1.5、薄口醤油大さじ1

①木綿豆腐の水をしつかり切り、ボールに入れる。

②①にねりゴマ、砂糖、薄口醤油を入れて混ぜる。

③柿を1センチ角のサイコロに切り、②に混ぜて完成。

《大原流声明雑話③①》 實光院住職 天納玄雄

円仁の法華経の書写が、のちに修業として整備されたものが「如法写経」である。かの上東門院、藤原彰子が参加した長元四年(一〇三三)の写経会では、書写した法華経を経箱や筒に収め、塚を造営して地中に埋納した。この時の経塚は大正十三年に如法堂を再建するために基礎工事を行なった際に発掘され、国宝に指定されている。

如法写経ではなぜ書写した経典を地中に埋納して塚を作るのであろうか。これは五十六億七千万年後、釈尊の次に仏となる弥勒仏の世まで経文を残すという意味がある。最澄上人が「あきらけく後の仏の御代までも光伝えよ法のともしび」と詠じた根本中堂の不滅の法灯に通じるものがある。釈迦の滅後、弥勒仏による衆生救済を切実に願ったのであろう。